

BUSINESS REPORT

第118期 報告書
2021 / 6 / Vol.61



株主の
みなさまへ

DOWA

証券コード:5714



2020年度(2021年3月期) 連結経営成績について

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2020年度(2021年3月期)における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた自動車関連製品及びサービスの販売は、当第2四半期以降、回復基調が継続しました。情報通信関連製品の販売は5G向けが増加し、また、新エネルギー関連製品の販売は、引き続き堅調に推移しました。環境・リサイクル関連サービスは廃棄物処理の受注が堅調でした。相場環境につきましては、前期と比較して平均為替レートは円高ドル安となり、貴金属や亜鉛、銅などのベースメタルの平均価格は上昇しました。

これらの結果、当期の売上高は5,880億円、営業利益は374億円、経常利益は372億円、親会社株主に帰属する当期純利益は218億円となりました。

当社は、株主の皆様への配当を経営における最重要課題の一つと位置付けており、中期計画2020の期間においては、1株当たり90円の安定した年間配当を維持した上で、利益水準に応じた増配を目指してまいります。この方針を踏まえ、当期の配当金については、前期より5円の増配となる1株当たり95円といたしました。

当社グループは、今後も企業価値のさらなる向上に取り組んでまいります。株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

代表取締役社長 関口 明

売上高

5,880 億円

(前年比+21.2%)

営業利益

374 億円

(前年比+44.3%)

経常利益

372 億円

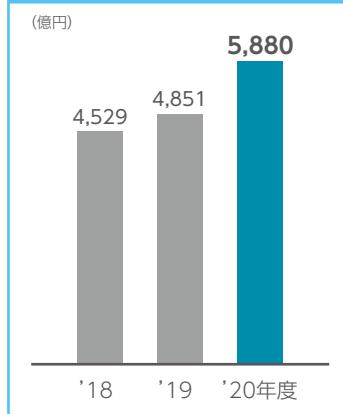
(前年比+28.3%)

親会社株主に帰属する当期純利益

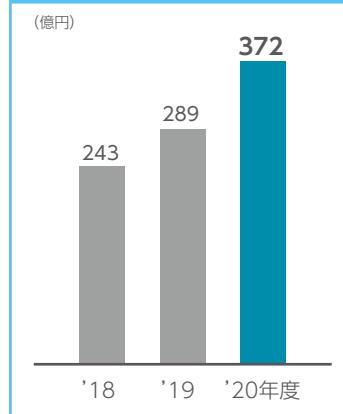
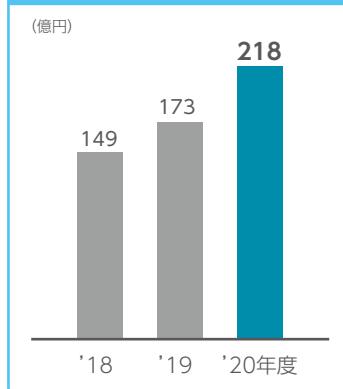
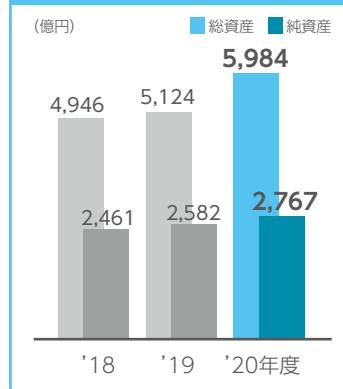
218 億円

(前年比+25.5%)

売上高の推移



経常利益の推移

親会社株主に帰属する
当期純利益の推移総資産および
純資産の推移

世界シェアNo.1、脱炭素社会の実現

■ 太陽光パネルとは

太陽光パネルは、太陽の光を電力に変換する太陽光発電に用いる主要部品のひとつです。太陽光発電は、発電時に二酸化炭素を排出しないため、地球に優しいクリーンな再生可能エネルギーとして、世界が目指す脱炭素社会の実現への貢献が期待されています。



エコシステム花岡(株)に設置した太陽光パネル

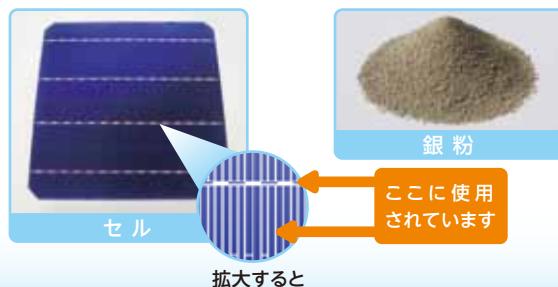
■ 拡大する太陽光パネル市場

近年、太陽光パネルは住宅の屋根だけでなく、工場・自動車の屋根やメガソーラーとして遊休地・池・湖など、様々な箇所に設置されるようになってきており、今後も大きく市場が成長することが期待されています。



■ 太陽光パネルにおける銀粉の役割

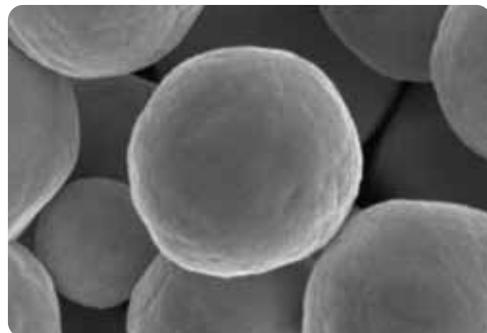
当社の銀粉は、太陽光パネルで発電した電気を集める電極に使われており、世界シェアNo.1を誇っています。銀は金属の中で最も導電率が高いことから、太陽光パネルで発電した電気を効率よく流すことができます。また、腐食しにくいことから耐久性が高く、屋外に設置される太陽光パネルにおいて、どのような環境下でも十分な性能を発揮することができます。



に貢献する太陽光パネル向け銀粉

■ 当社の銀粉の強み

太陽光パネルは常に発電効率の向上が求められており、そのために電極の幅を細くしていく（細線化）ニーズがあります。当社は、これまで培ってきた技術やノウハウなどにより、細線化に適した銀粉を世界中のユーザーに提供し続けています。また、より高効率な次世代向け太陽光パネルへの性能ニーズにもタイムリーに対応しており、ユーザーから高い信頼を得ると同時に、長くトップシェアを維持し続けています。



銀粉の電子顕微鏡写真

■ 使用済み太陽光パネルからの銀リサイクル

太陽光パネルはおおよそ20年から30年で寿命を迎えると言われており、今後、使用済みとなった太陽光パネルが大量に廃棄される時期が訪れます。当社では、廃棄物を取り扱うノウハウや金属を効率よく取り出す技術を活用し、廃棄された太陽光パネルから銀をリサイクルする技術の開発を進めています。今後高まる太陽光パネルのリサイクル需要に備え、実用化を目指していきます。

■ 脱炭素社会の実現に向けて

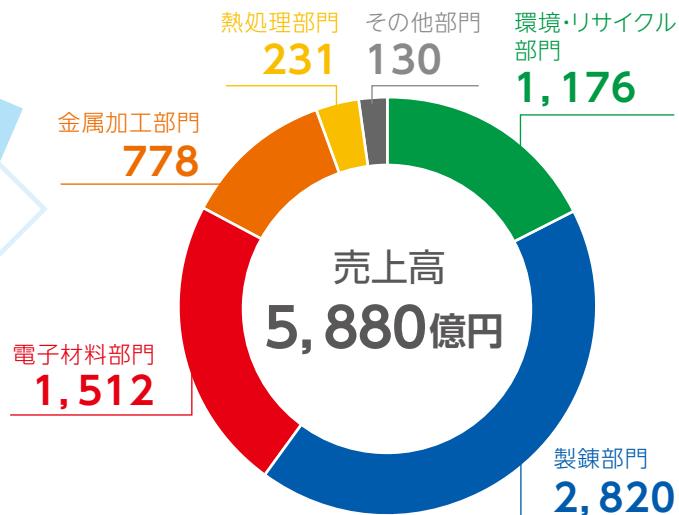
当社は、「地球を舞台とした事業活動を通じて、豊かな社会の創造と資源循環型社会の構築に貢献する」という企業理念のもと、太陽光パネルなど再生可能エネルギーの創出に関する素材・サービスの提供、使用されている金属のリサイクルなどに取り組むことにより、脱炭素社会の実現に貢献していきます。



太陽光パネルにおける銀の循環

部門別の 営業状況

部門別連結売上高構成(2020年度)



※各部門の売上高には、連結調整による消去分769億円を含んでおります。

環境・リサイクル部門

廃棄物処理事業では焼却の処理量は前期並みとなり、処理単価は堅調に推移しました。また、溶融・再資源化の処理量が増加しました。

土壌浄化事業では前期並みの売上となりました。リサイクル事業では当社製錬所向けのリサイクル原料の集荷量は減少し、家電リサイクルの処理量は増加しました。海外事業ではインドネシア・タイにおいて廃棄物処理の受注が減少しました。



溶融・再資源化処理施設

2020年度

売上高 **1,176** 億円 (前年比+4.9%)

経常利益 **86** 億円 (前年比+25.5%)



製錬部門

貴金属銅事業では銅の生産量が前期並みとなりました。PGM事業では使用済み自動車排ガス浄化触媒からの金属回収量が増加しました。亜鉛事業では製錬原料の購入条件が改善し、亜鉛のたな卸資産の簿価切下額による損失幅が縮小しました。これに加え、製錬部門は、金、銀、PGM（白金族金属）等の貴金属価格が前年同期比で上昇した影響を受けました。持分法適用関連会社については、小名浜製錬(株)などの利益が増加しました。



銀のインゴット

2020年度

売上高 **2,820** 億円 (前年比+24.1%)

経常利益 **259** 億円 (前年比+112.5%)



電子材料部門

半導体事業ではLEDの販売が医療機器用途等で増加しました。電子材料事業では、新エネルギー関連市場の世界的な拡大により、太陽光パネル向け銀粉の販売が堅調に推移しました。機能材料事業では磁性粉の販売が低調に推移しました。新規製品開発では、商業生産を開始した電子部品向け導電性アトマイズ粉の販売が伸長しました。



導電性アトマイズ粉

2020年度

売上高 **1,512** 億円 (前年比+54.0%)

経常利益 **36** 億円 (前年比+53.9%)



部門別の営業状況

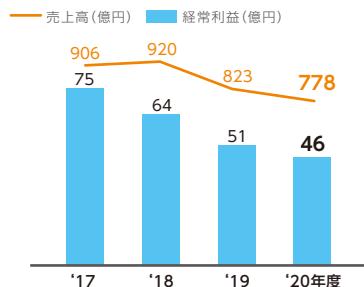
金属加工部門

伸銅品事業では自動車向けの販売が第2四半期連結会計期間に回復に転じ、第3四半期連結会計期間以降は堅調に推移しました。また、第5世代移動通信システム(5G)向けの販売は増加しました。めっき事業では伸銅品事業と同様、自動車向けの販売が回復しました。回路基板事業では鉄道向けの販売が減少したものの、産業機械向けの販売は増加しました。



めっき付き伸銅品

2020年度
売上高 **778** 億円 (前年比△5.5%)
経常利益 **46** 億円 (前年比△10.8%)



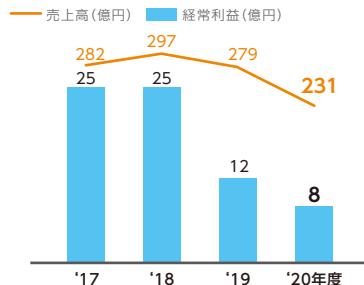
熱処理部門

熱処理事業では第1四半期連結会計期間において世界的に自動車生産台数が減少した影響を受けましたが、第2四半期連結会計期間に日本、中国、米国、インド等での受託加工数量が回復に転じ、第3四半期連結会計期間以降は堅調に推移しました。工業炉事業では新規設備及び設備メンテナンスの受注が低調に推移しました。



熱処理加工品

2020年度
売上高 **231** 億円 (前年比△17.2%)
経常利益 **8** 億円 (前年比△34.7%)



食品廃棄物を原料とするバイオガス発電事業を開始

DOWAエコシステム(株)の子会社・バイオディーゼル岡山(株)において、食品廃棄物を原料とするバイオガス発電事業を開始しました。

食品卸売業・小売業・外食産業などから排出される調理くずや廃棄食品を年間1万6000トン受け入れ、メタン発酵させて生じるガスを利用し発電します。中国地方5県では初の商業的な大規模施設です。約1,600世帯の年間使用量に相当する発電を行い、固定価格買取制度(FIT)を利用し売電します。

食品廃棄物の発生抑制や有効利用は、持続可能な社会を構築するため、世界的にも重要な課題の一つです。

DOWAグループは、廃棄物の適正処理や再資源化等、環境・リサイクルサービスの強化を引き続き推進し、社会に貢献していきます。



バイオガス発電施設

地方自治体と災害廃棄物処理協定を締結

近年、日本で増加する大規模な台風や地震などにより、災害廃棄物が大量に発生しています。災害廃棄物は、衛生面の観点などから迅速に処理する必要があります。短期間に大量に発生するため、自治体の処理能力を超え、処理完了までに長い期間が必要になることがあります。

当社はそのような場合に備え、主要な廃棄物処理拠点において各自治体と「災害廃棄物の処理に関する協定」を結び、迅速な災害廃棄物の処理に協力できる体制を整えています。



災害廃棄物処理に関する基本協定締結式の様子

取締役・監査役



代表取締役会長
山田 政雄



代表取締役社長
関口 明



取締役
松下 克治



取締役
川口 純



取締役
飛田 実



取締役
菅原 章



社外取締役
細田 衛士



社外取締役
小泉 淑子



社外取締役
佐藤 公生



監査役(常勤)
木下 博



監査役(常勤)
福澤 元



監査役(非常勤)
武田 仁



監査役(非常勤)
江川 茂

執行役員



執行役員
人事部長

片桐 敦



執行役員
経営企画部長

細野 浩之



執行役員
DOWAエコシステム㈱
代表取締役社長

矢内 康晴



執行役員
DOWAメタルマイン㈱
代表取締役社長

須山 俊明



執行役員
DOWAエレクトロニクス㈱
代表取締役社長

鈴木 浩二



執行役員
DOWAメタルテック㈱
代表取締役社長

鬼王 孝志



執行役員
DOWAサーモテック㈱
代表取締役社長

辻 隆治



執行役員
DOWAテクノロジー㈱
代表取締役社長

山田 潔



執行役員
DOWAマネジメントサービス㈱
代表取締役社長

若林 英一

会社概要

創 業	1884年9月18日
設 立	1937年3月11日
資 本 金	364億37百万円
DOWAグループの社員数	約7,200人
主 な 事 業 内 容	環境・リサイクル事業 製錬事業 電子材料事業 金属加工事業 熱処理事業

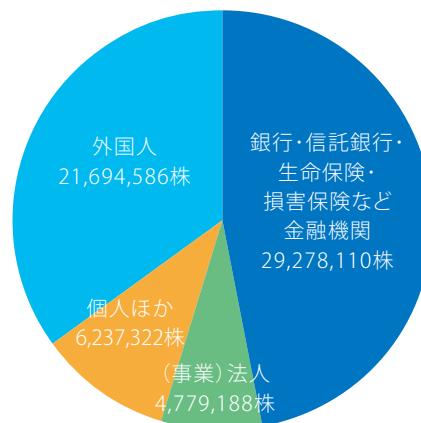
株式の状況

発行可能株式総数	200,000,000株
発行済み株式の総数	61,989,206株
株 主 数	9,619名

主要子会社

DOWA エコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWA メタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWA エレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWA メタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWA サーモテック(株)	熱処理事業会社
DOWA テクノロジー(株)	技術サポート会社
DOWA マネジメントサービス(株)	事務サポート会社

所有者別株式分布状況



大株主

	持分比率
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13.13%
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	9.92%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	6.43%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	3.53%
藤田観光株式会社	3.12%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C NON TREATY	2.22%
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505103	1.79%
株式会社みずほ銀行	1.60%
日本生命保険相互会社	1.54%

当社は自己株式1,888千株を保有しており、持分比率については、自己株式を控除しています。

株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
公 告 方 法	電子公告 (https://www.dowa.co.jp/) ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。
株 主 名 簿 管 理 人 および特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	0120-782-031 (フリーダイヤル)
(ホーム ページ アドレス)	https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <https://www.dowa.co.jp/>

表紙写真：DOWAホールディングス㈱の社員

